



Bank of Japan Fukushima Branch

福島県金融経済概況 (2020年9月分※)

【概況】

県内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響を主因に厳しい状態にあるが、徐々に持ち直しつつある。

最終需要の動向をみると、個人消費は、外食や旅行等のサービス消費は引き続き厳しい状態にあるが、全体としては徐々に持ち直しつつある。住宅投資は、減少している。設備投資は、幾分弱めの動きがみられている。公共投資は、東日本大震災からの復興関連工事、東日本台風等の復旧関連工事を中心に、増加している。

鉱工業生産は、新型コロナウイルス感染症による下押しの影響を受けつつも、持ち直しの動きがみられる。

雇用・所得環境は、人員不足感が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている。

先行きについては、東日本大震災からの復興需要のピークアウトに加え、新型コロナウイルス感染症の影響には、注意していく必要がある。

※ 直近までに入手可能な金融経済統計およびヒアリング情報をもとに、県内の金融経済動向を取り纏め。

【前回からの基調の変化】

総括	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	生産	雇用・所得
↑	↑	→	→	↑	→	→

(注)

- ↑ : 前回から改善度合いが強まっている、もしくは悪化度合いが弱まっている。
- : 前回から変化なし。
- ↓ : 前回から改善度合いが弱まっている、もしくは悪化度合いが強まっている。

【本件に関する問い合わせ先】

日本銀行 福島支店 総務課
TEL:024-521-6353

本資料は、ホームページ (<https://www3.boj.or.jp/fukushima/>) にも掲載しています。

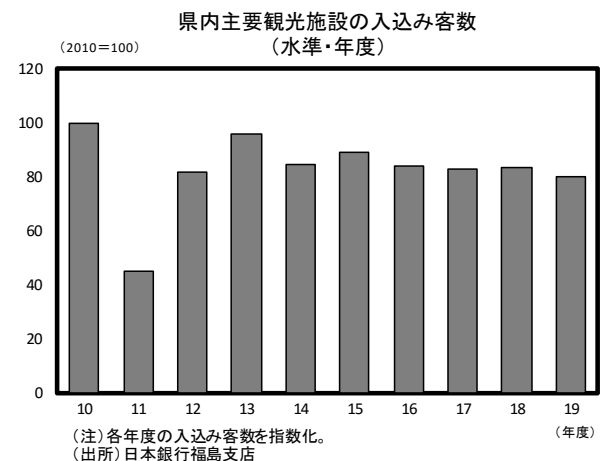
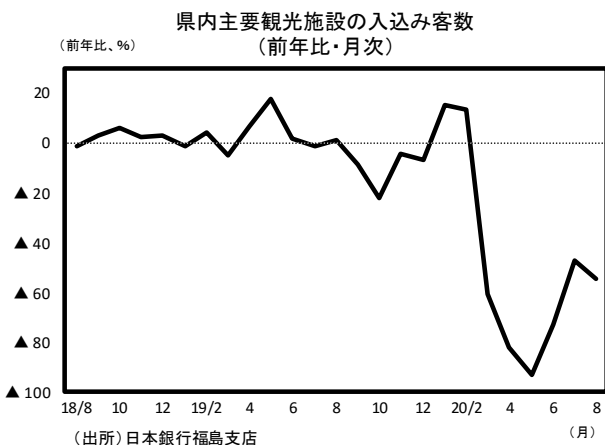
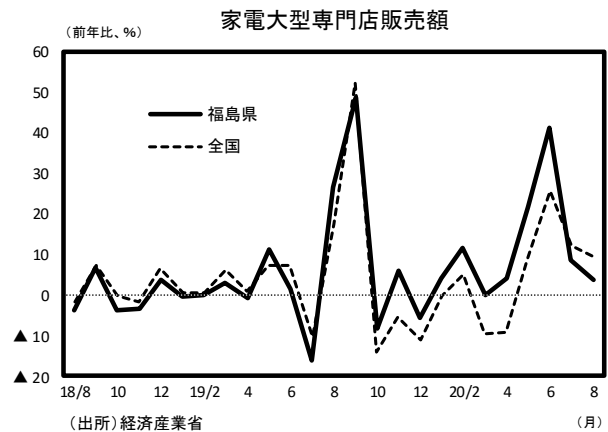
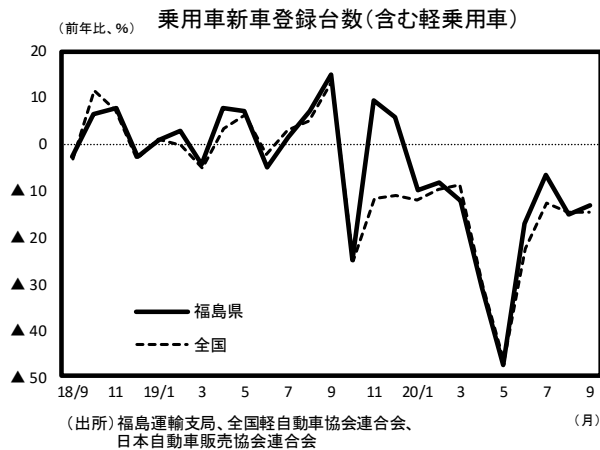
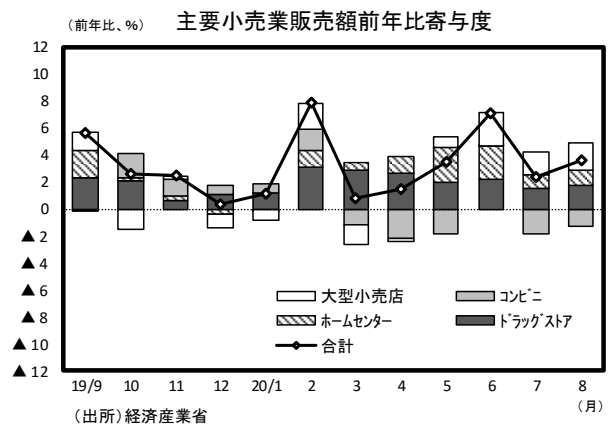
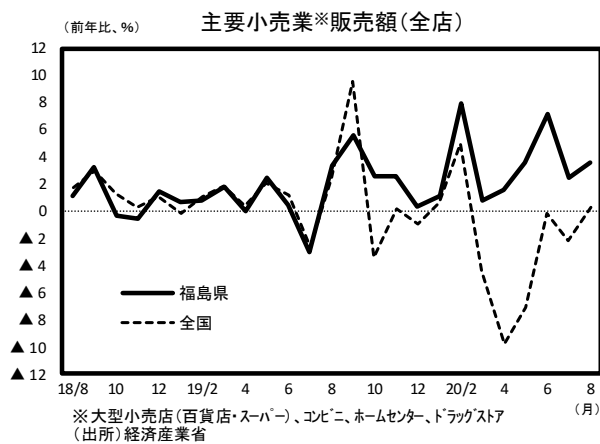
1. 需要項目別の動向

【個人消費】

個人消費は、外食や旅行等のサービス消費は引き続き厳しい状態にあるが、全体としては徐々に持ち直しつつある。

主要小売業販売額（8月）は、食料品や日用品を中心に前年を上回った。乗用車新車登録台数（9月）は、前年を下回った。家電大型専門店販売額（8月）は、前年を上回った。この間、外食や旅行等のサービス消費は、徐々に持ち直しているが、引き続き厳しい状態にある。

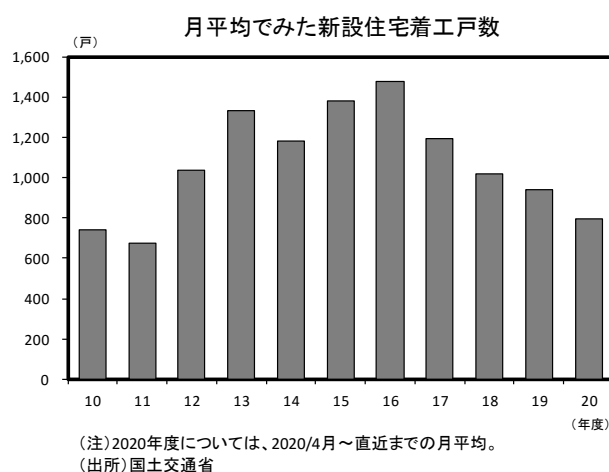
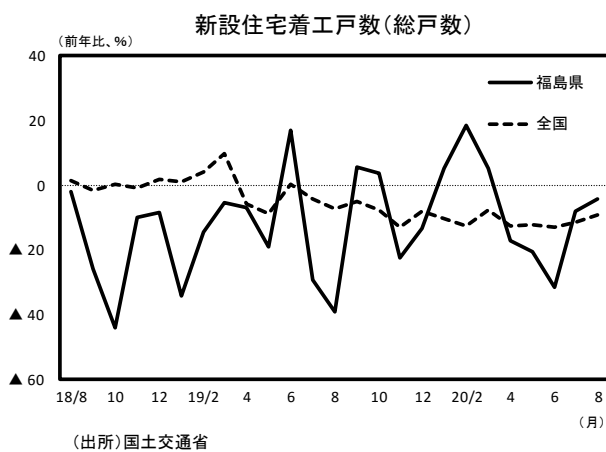
県内主要観光施設や宿泊施設への入込みは、引き続き厳しい状態にあるが、政府・自治体の経済対策の効果にも支えられて、足もとでは持ち直している。



【住宅投資】

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数（8月）は、持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が前年を下回ったことから、全体でも前年を下回った。

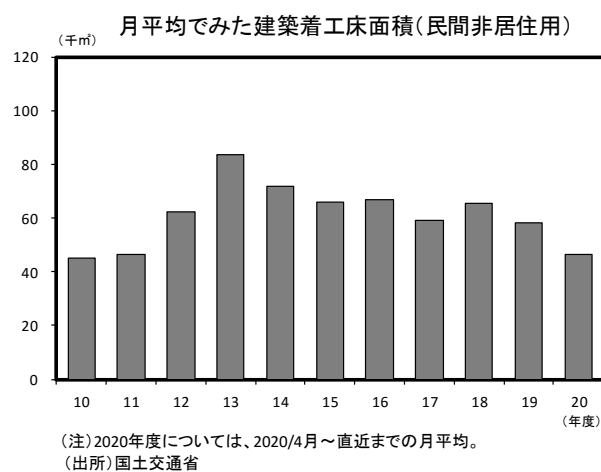
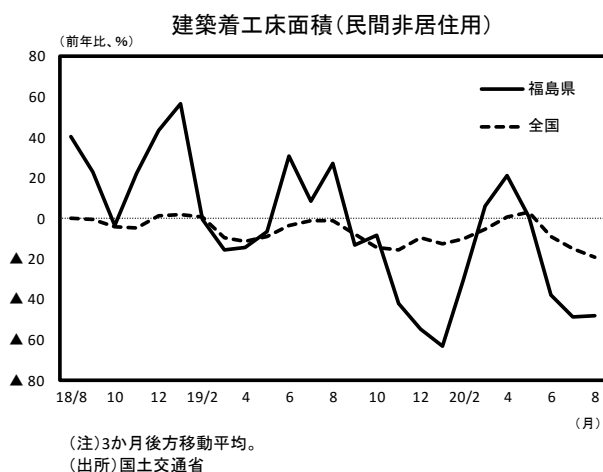


【設備投資】

設備投資は、幾分弱めの動きがみられている。

9月短観における県内企業の2020年度設備投資計画をみると、非製造業で新規出店や店舗改装投資などがみられていることから、前年度を上回る計画となっている。もっとも、新型コロナウイルス感染症の影響による収益の悪化や先行き不透明感を受けて、投資の抑制や先送りの動きがみられており、製造業では前年度を下回る計画となっている。

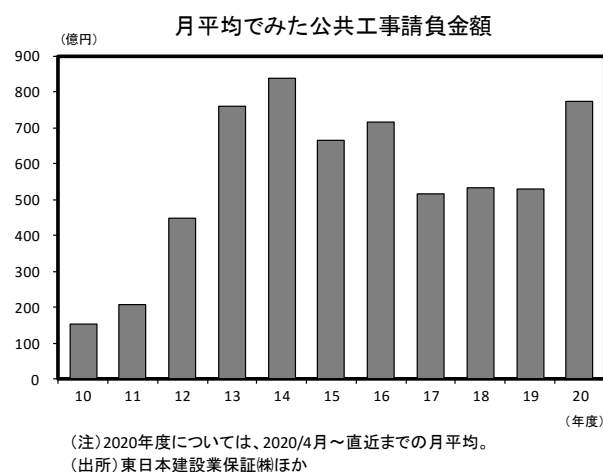
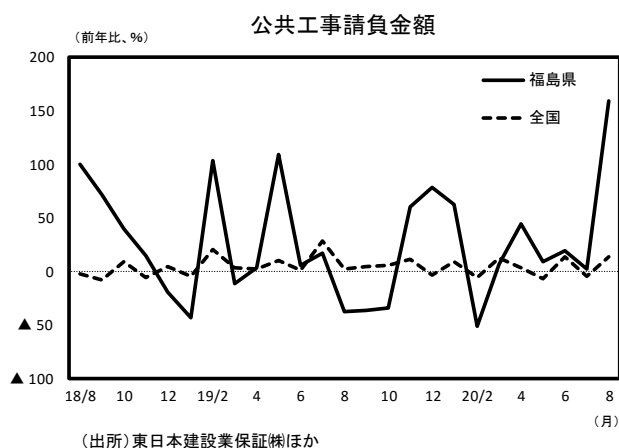
建築着工床面積（民間非居住用）（8月<3か月後方移動平均>）は、前年を下回った。



【公共投資】

公共投資は、東日本大震災からの復興関連工事、東日本台風等の復旧関連工事を中心に、増加している。

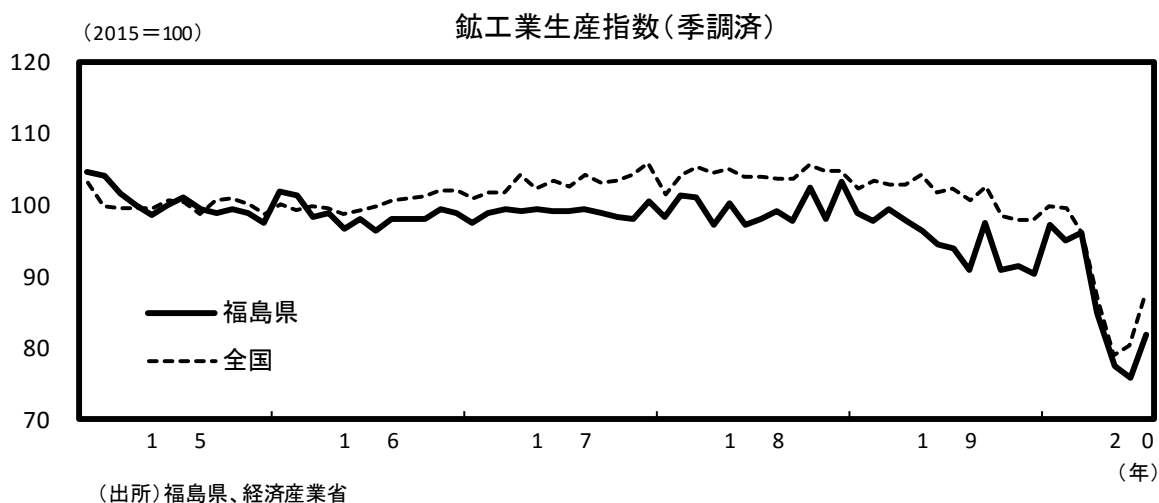
公共工事請負金額（8月）は、前年を上回った。この間、資材価格は、東日本大震災前に比べて高い水準で横ばい状態にある。



2. 生産動向

鉱工業生産は、新型コロナウイルス感染症による下押しの影響を受けつつも、持ち直しの動きがみられる。

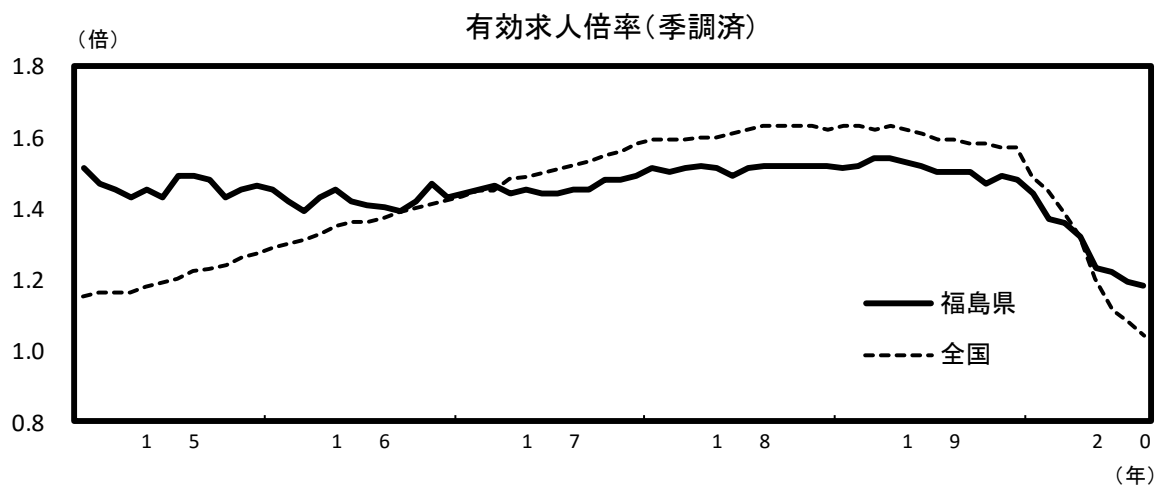
鉱工業生産指数（7月）を主な業種別にみると、輸送機械、化学、汎用・生産用・業務用機械は上昇した一方、情報通信機械、電子部品・デバイスは低下した。



3. 雇用・所得

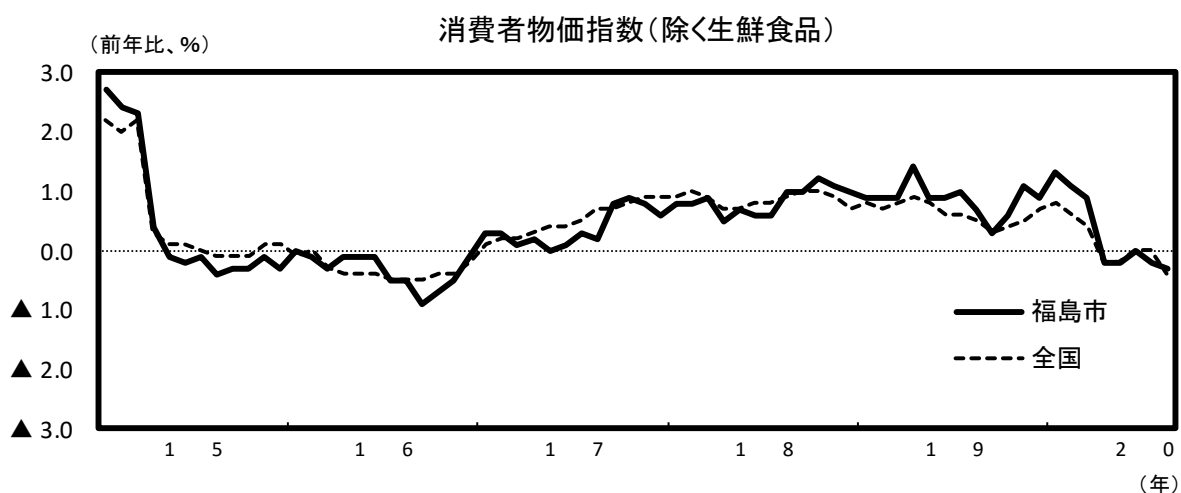
雇用・所得環境は、人員不足感が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている。

有効求人倍率は、総じてみれば高水準で推移しているものの、足もと低下している。



4. 物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)は、前年を下回った。



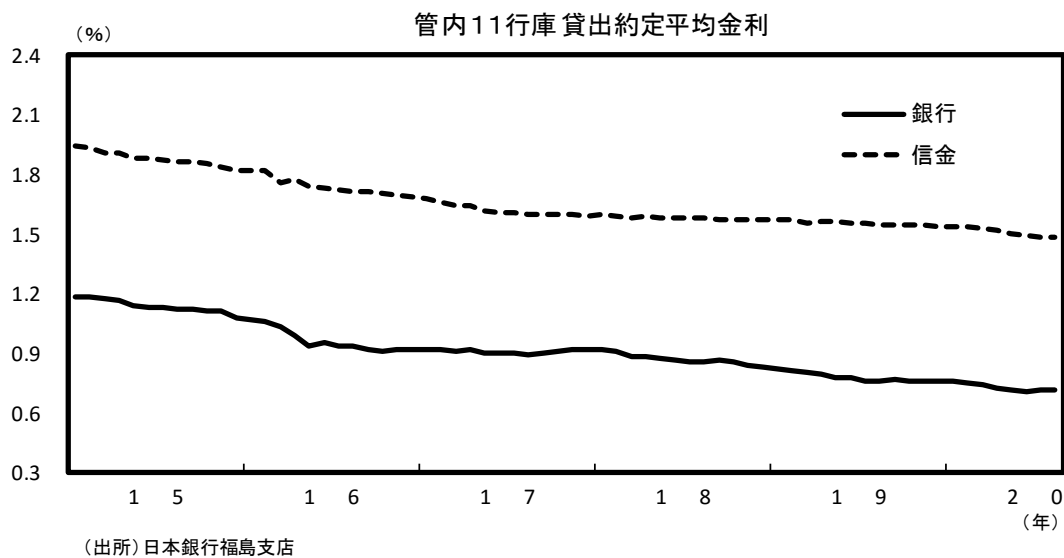
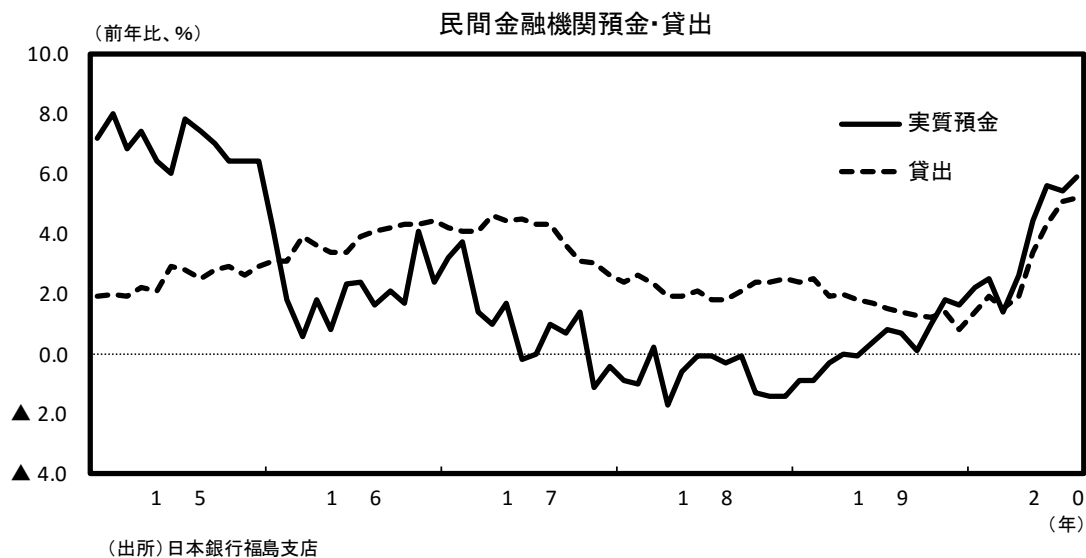
5. 金融情勢

実質預金は、一般預金（個人・法人預金）が前年を上回っていることなどから、全体でも前年を上回って推移している。

貸出は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

企業倒産は、低水準ながら、このところ幾分増加してきている。



以上